

17日 金曜

I サムエル



14:19 サウルが祭司とまだ話している間に、ペリシテ人の陣営の騒動は、ますます大きくなっていった。サウルは祭司に「手を戻さない」と言った。

14:20 サウルと、彼とともにいた兵がみな集まって戦場に行くと、そこでは剣をもって同士討ちをしていて、非常に大きな混乱が起こっていた。

14:21 それまでペリシテ人について、彼らと一緒に陣営に上って来ていたヘブル人も転じて、サウルとヨナタンとともにいるイスラエル人の側につくようになった。

14:22 また、エフライムの山地に隠れていたすべてのイスラエル人も、ペリシテ人が逃げたと聞いて、戦いに加わってペリシテ人に追い迫った。

14:23 その日、【主】はイスラエルを救われた。そして、戦いはベテ・アベンに移った。

14:24 さて、その日、イスラエル人はひどく苦しんでいた。サウルは、「夕方、私が敵に復讐するまで、食物を食べる者はのろわれよ」と言って、兵たちに誓わせていた。それで兵たちはだれも食物を口にしていなかったのであった。

14:25 この地はどこでも、森に入っていくと、地面に蜜があった。

14:26 兵たちが森に入ると、なんと、蜜が滴っていたが、だれも手に付けて口に入れる者はいなかった。兵たちは誓いを恐れていたのである。

14:27 しかし、ヨナタンは、父が兵たちに誓わせたことを聞いていなかった。彼は手にあった杖の先を伸ばして、蜜蜂の巣に浸し、

それを手に付けて口に入れた。すると彼の目が輝いた。

14:28 兵の一人がそれを見て言った。「あなたの父上は、兵たちに堅く誓わせて、『今日、食物を食べる者はのろわれる』とおっしゃいました。それで兵たちは疲れているのです。」

14:29 ヨナタンは言った。「父はこの国を悩ませている。ほら、この蜜を少し口にしたので、私の目は輝いている。」

14:30 もしも今日、兵たちが、自分たちが見つけた敵からの分捕り物を十分食べていたら、今ごろは、もっと多くのペリシテ人を討ち取っていただろうに。」

14:31 その日彼らは、ミクマスからアヤロンに至るまでペリシテ人を討った。それで兵たちはたいへん疲れていた。

14:32 兵たちは分捕り物に飛びかかり、羊、牛、若い牛を取り、その場で屠った。兵たちは血が付いたままで、それを食べた。

14:33 すると、「ご覧ください。兵たちが血のままで食べて、【主】に罪を犯しています」と、サウルに告げる者がいた。サウルは言った。「おまえたちは裏切った。今、大きな石を転がして来なさい。」

14:34 そしてサウルは言った。「兵の中に散って行って、彼らに言いなさい。『それぞれ自分の牛か羊を私のところに連れて来て、ここで屠って食べなさい。血のままで食べて【主】に罪を犯してはならない。』」兵はみな、その夜、それぞれ自分の手で牛を連れて来て、そこで屠った。

14:35 サウルは【主】のために祭壇を築いた。これは、彼が【主】のために築いた最初の祭壇であった。

サウルは祭司とともに主の御心を聞こうとしましたが、状況が良いと判断すると、自分の判断で戦いに出て行ってしまいました。目先の結果から見ると、良い判断のように見えます。しかしそこにサウルの独善と高慢が生じてしまいました。すなわち彼は自己流の信仰で民に断食の義務を負わせ、苦しめたのです。

主の御心を日頃から聞いて、重要な時に判断を間違わないようにしましょう。そして勝利のときも自分の判断力を過信せず、あくまでも主の前に謙遜でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

